

日時：平成22年10月25日(金) 10:30～11:30

場所：飯田市鼎公民館 3階学習展示室

## 三六災害50年実行委員会・幹事会（第1回）合同会議

### 次 第

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ（主旨説明）

#### 3. 準備会報告

##### 1) 実行委員会設立趣意書（案）

##### 2) 実行委員会組織（案）

##### 3) 実行委員会規約（案）

#### 4. 議事

##### 1) 事業内容

##### 2) 今後の進め方

##### 3) その他

#### 5. 閉会

## 三六災害 50 年にむけて

来年は、伊那谷三六災害から 50 年の節目を迎えます。この 50 年の節目を契機として、忘れかけた記憶を思い起こし、災害の実態を再認識すると共に、教訓として後世に継承し、地域とともに水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指し、伊那谷の未来を考える取組を行う必要があります。

このため、関係機関が情報を共有し、積極的に啓発活動を実施するための「三六災害 50 年実行委員会」を設置し、地域の皆様と幅広く連携し、貴重な経験を生かし、未来を指向した取り組みを進めていくこととします。

### (1) 実行組織等

#### 1) 三六災害 50 年実行委員会

	組 織 名 等	役 職
1	信州大学名誉教授 北澤 秋司 (委員長)	
2	林野庁 南信森林管理署	署長
3	林野庁 伊那谷総合治山事業所	所長
4	気象庁 長野地方気象台	台長
5	国土交通省 天竜川上流河川事務所	所長
6	国土交通省 三峰川総合開発工事事務所	所長
7	国土交通省 飯田国道事務所	所長
8	国土交通省 天竜川ダム統合管理事務所	所長
9	長野県 上伊那地方事務所	所長
10	長野県 下伊那地方事務所	所長
11	長野県 伊那建設事務所	所長
12	長野県 飯田建設事務所	所長
13	長野県 下伊那南部建設事務所	所長
14	飯田市	市長
15	伊那市	市長
16	駒ヶ根市	市長
17	上伊那広域連合 (伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村)	連合長
18	南信州広域連合 (飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村)	連合長
19	下伊那郡町村会	会長
20	下伊那土木振興会	会長

2) 設立趣意書 (別紙1)

3) 規約 (別紙2)

4) 協賛・後援を募る

## (2) 実行委員会事業

### 1) シンポジウム

- 次代を担う若者や災害教訓の経験があり災害伝承を発信する方を中心とし、一般層を対象に500名規模で実施
- 日時：平成23年6月19日(日)
- 場所：飯田市
  - 午前： 展示(防災技術等)
    - パネル展示(災害当時と今の比較展示)
    - 休憩所を兼ねた物産販売
  - 午後： 基調講演
    - アトラクション(伝統文化等)
    - パネルディスカッション

### 2) その他の取り組み

- 大規模災害を想定した防災訓練
- リレー式パネル展示
- ロゴマークの作成
- その他

## (3) 個別事業 (各県市町村、各機関での取り組み)

- ①通年各機関で実施している事業に関連を持たせイベント化する。
- ②各県市町村、各機関で新たに発案し、各県市町村、各機関で実施する。
- ③実行委員会は、全体像を掌握し情報共有を図り、実施の予定・実施状況を広報する。

## (4) 関連した取り組み (平成22年10月25日時点)

- 防災シンポジウム (10/7) (長野県砂防ボランティア協会南信支部が実施)
- 砂防講演会 (10/19) ((社)長野県建設業協会飯田支部、(社)長野県土木施工管理技士会飯田支部が実施)
- ラジオ放送 (10/31(日) 15:30~16:00) (中部建設協会が実施)  
SBCラジオ特別番組 ~36災害を忘れない~  
来年に向け、地域が連携して取り組みを実施する旨を広報する。
- 記録誌の発行 (中部建設協会が実施)
- 今後、防災関係のイベントがあれば、関連した取り組みとしてPRしていく。

(5) 広報

- ① 各機関のホームページに取り組みを紹介するページを掲載する。  
(URL : <http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/think/saburoku/index.html>)
- ② 市町村広報紙へ掲載する。
- ③ ケーブルテレビを活用する。
- ④ ポスター・チラシ等を作成する。
- ⑤ 記念事業のマークを作成し、各機関等が事業を実施する場合には、マークを表示し、広報を図る。

(6) 今後の進め方

幹事会により、詳細内容を検討し、実施していく。

## 三六災害 50 年実行委員会

### 設立趣意書

昭和 36 年 6 月、伊那谷を襲った集中豪雨は、伊那谷の各所で堤防の決壊、土石流、がけ崩れ等を引き起こし、日本の災害史上に残る大惨事となりました。あの大惨事から年月が流れ、来年 6 月で 50 年を迎えます。

伊那谷では、この 50 年間、河川の改修、砂防・地すべり対策、治山対策、交通網の整備及び防災情報施設の整備がなされ、めざましく発展し、大変住みやすい地域となりました。

しかし、一方で、災害に対する危機意識が年々薄れつつあるのも事実です。また、近年では、異常気象等に起因する集中豪雨や局地的な大雨が、日本の各所で観測されており、地形が急峻で地質が脆弱な伊那谷においても、そのような大雨に見舞われ、大洪水や大規模な土砂災害が起こる危険性は依然として大きいと言えます。

この 50 年の節目を契機として、忘れかけた記憶を思い起こし、災害の実態を再認識すると共に、教訓として後世に継承し、地域とともに水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指し、伊那谷の未来を考える取組を行う必要があります。

このため、関係機関が情報を共有し、積極的に啓発活動を実施するための「三六災害 50 年実行委員会」を設置するものです。

## 三六災害 50 年実行委員会 規約

(名称)

### 第 1 条

本会は「三六災害 50 年実行委員会」(以下、「実行委員会」という。)と称する。

(目的)

### 第 2 条

伊那谷三六災害から来年 6 月で 50 年の節目を迎える。災害を風化させず、教訓として継承し、さらに地域とともに水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指すため、関係機関が情報を共有し、積極的に啓発活動を行うものである。

(実行委員会)

### 第 3 条

実行委員会は名簿 1 のとおり構成する。なお、実行委員会は協賛を含め事業を推進できるものとする。

(幹事会)

### 第 4 条

幹事会は名簿 2 のとおり構成し、実行委員会の実務を行う。

(事務局)

### 第 5 条

事務局は国土交通省天竜川上流河川事務所内に置く。

(その他)

### 第 6 条

実行委員会の規約の改正、その他運営に関して必要な事項は実行委員会において定める。

付則

この規約は平成 22 年 10 月 25 日から施行する。

## 実行委員会 名簿

◎信州大学名誉教授 北澤 秋司 (委員長)

林野庁 南信森林管理署長

林野庁 伊那谷総合治山事業所長

気象庁 長野地方気象台長

国土交通省 天竜川上流河川事務所長

国土交通省 三峰川総合開発工事事務所長

国土交通省 飯田国道事務所長

国土交通省 天竜川ダム統合管理事務所長

長野県 上伊那地方事務所長

長野県 下伊那地方事務所長

長野県 伊那建設事務所長

長野県 飯田建設事務所長

長野県 下伊那南部建設事務所長

飯田市長

伊那市長

駒ヶ根市長

上伊那広域連合長 (※1)

南信州広域連合長 (※2)

下伊那郡町村会長

下伊那土木振興会長

※1 上伊那広域連合

伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村

※2 南信州広域連合

飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、  
壳木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

## 幹事会 名簿

- 林野庁 南信森林管理署 治山課長 澤口 篤夫  
林野庁 伊那谷総合治山事業所 技術専門官 開藤 秀昭  
気象庁 長野地方气象台 防災業務課長 鈴木 孝雄
- ◎国土交通省 天竜川上流河川事務所 副所長 犬飼 一博 (幹事長)  
国土交通省 三峰川総合開発工事事務所 総務課長 早川 保弘  
国土交通省 飯田国道事務所 総務課長 布施 伸夫  
国土交通省 天竜川ダム統合管理事務所 副所長 後藤 英之  
長野県 上伊那地方事務所 林務課長 小松 大八  
長野県 下伊那地方事務所 林務課長 田島 裕志  
長野県 伊那建設事務所 整備課長 久保田 幸雄  
長野県 飯田建設事務所 整備課長補佐 細川 容宏  
長野県 下伊那南部建設事務所 整備課長 榛葉 雄次  
飯田市 建設部 建設管理課長補佐 田中 真  
伊那市 総務部 総務課長 広瀬 一男  
駒ヶ根市 まちづくり推進部 都市整備課 監理係長 松澤 仁史  
上伊那広域連合 土木振興課長 酒井 信弘  
南信州広域連合 事務局次長 宇井 延行  
下伊那郡町村会 次長 牛久保 守  
下伊那土木振興会 事務局長 平沢 清